

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)座間市相武台二丁目計画新築工事	階数	地上15F
建設地	神奈川県座間市相武台二丁目4848番5	構造	RC造
用途地域	準工業地域、指定なし	平均居住人員	788人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年8月 予定	評価の実施日	2016年8月3日
敷地面積	8,442 m ²	作成者	株式会社長谷工コーポレーション
建築面積	1,762 m ²	確認日	
延床面積	17,948 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	138 (kg-CO ₂ /年・m ²)
②建築物の取組み	59%
③上記+②以外の	59%
④上記+	59%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 4.1

音環境	3.1
温熱環境	4.8
光・視環境	3.6
空気質環境	4.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

機能性	3.7
耐用性・信頼性	3.0
対応性・更新性	3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.2

生物環境	2.0
まちなみ・景観	4.0
地域性・アメニティ	3.6

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

建物外皮の熱負荷	5.0
自然エネルギー	3.0
設備システム効率化	4.9
効率的運用	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

水資源	2.2
非再生材料の使用削減	3.3
汚染物質回避	3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

地球温暖化への配慮	4.6
地域環境への配慮	3.0
周辺環境への配慮	3.1

3 設計上の配慮事項		その他
総合	豊かな緑の創出と共に、各共用空間に対し四季をテーマとした庭を創出。周辺と調和したうおいのある景観を保全した。	0
Q1 室内環境	・二重壁によりDr値50を確保。 ・F☆☆☆☆を床、壁、天井、天井裏の面積の合計の90%以上の面積に採用し、さらに、ホルムアルデヒド以外のVOCについても放射量が少ない建材を全面的に採用。	Q3 室外環境(敷地内) 近隣の桜並木をつなぐ桜を植栽。四季を通じて豊かな自然を創出するよう季節に合った植栽を行うよう配慮している。
Q2 サービス性能	建物全体のコンセプトや機能、快適性に配慮している。 ・住宅性能表示基準劣化対策等級3を満たす。 ・各住戸に100Mbpsクラスのブロードバンドが利用可能。	LR3 敷地外環境 駐輪場200%を確保した上、バイク置場を設置することで周辺の交通負荷軽減に配慮している。 ・ディスプレイ設備を採用。
LR1 エネルギー	外皮等に2方向面することで有効な採光・通風が確保されエネルギーを有効活用できるように配慮している。 ・断熱等性能等級4を満たす。 ・潜熱回収型給湯器エコジョーズ、複層ガラスを採用。	
LR2 資源・マテリアル	二重壁・二重天井を採用し資源の再利用に配慮している。 ・リサイクル資材ダンフスマを採用。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される